



JIA 建築家大会 2016 大阪 笑都物語

繋いできたもの 繋いでゆくもの

2016.10.27(木)~10.29(土)

大会を終えて



大会実行委員長 松本敏夫

3日間にわたる「JIA 建築家大会 2016 大阪」も、全国の会員のご協力のもと、盛会に終えることができました。ひとえに皆様のお蔭と感謝し厚く御礼申し上げます。

本大会にお越しいただきました皆様方には大阪の状況がいかが映りましたでしょうか。大阪の現存する近代化資産はじめ、人のパワーなど、大阪の潜在的ポテンシャルの高さを改めて感じたとの有難い評価もいただきました。今回のテーマとメインプログラムでは大阪を題材として、これからの街のありようを考える機会といたしました。皆様の期待通りであったのか、そして建築家らしい大会となったのか、半信半疑で多々反省もありますが、これを出発点としたこれからの活動が大変重要と捉えております。

高度成長期における、都市が郊外への拡散で中心市街地の空洞化が問題となる中、これからの人口減少を認識し、大きくスプロール化した街においていかに行政負荷を減らしながら拡散型社会を収束させていくかが大きな課題でもあることを認識する必要があります。政府機関の一部の移転等で地方活性化を図ろうとの政策的思惑もあるようですが、やはり、真の地方創生には、地方の価値を見出し、それらを熟成させていくことが必要不可欠と考えられます。世界の早さで進む高齢化に対応しながら、高齢社会の都市コミュニティの一体感と、都市の国際的プレゼンスを高め、若い才能に満ち溢れた魅力的な街でなければならないと思います。

大会中、梅田北ヤードの暫定利用における菜の花プロジェクトにおいて、次に繋げるためのご協力をいただきました。今後の土地利用の方向性にも大いに関心のあるところです。この場所の活用方法で大阪のこれからの見通せるといっても過言ではないような気がいたします。ぜひ100年の大計をもった英断をしてほしいと切に願っております。今後も他人ごとと捉えず、大いに建築家も関心を持ち加担していかねばなりません。建築家としての職能をいかに地域に生かすかが問われています。

最後になりましたが、改めて全国からの参加いただいた皆様、微力な大会実行委員長を支えていただき、大いなる知略を立て、汗をかいていただいた井上支部長はじめ実行委員の皆様、支部の会員、そして多くの協賛をいただいた企業、他関係各位には深く敬意と感謝を申し上げます。本大会を一過性のものとせず次への活動に繋がっていくことを大いに期待するとともに、本大会が来年の徳島へと繋がり、全国の街の活性化に向けて建築家が役割を担うことを願っております。本当に有難うございました。



近畿支部長 井上久実

3日間におけるJIA全国大会2016大阪は無事終了しました。大阪にお越しいただいた皆様、大会にご協力いただいた皆様には心より感謝しております。

近畿支部は、昨年大阪地域会が発足し間もない時期であり、私は今年度から近畿支部長に就任した矢先、さらに、大阪で初めての全国大会であったことで戸惑いでしたが、これをチャンスと捉え、近畿支部一丸となり全国大会を盛り上げることができました。

1年半の準備期間では、大会テーマの決定から始まり、会場の選定、企画の内容、予算の確保、広報の仕方など何度も調整を繰り返しました。その中で、何を目指していくのか、コンセプトがずれてはいないかを、幾度となく議論し、また自問して参りました。

時には行き詰まり、また議論が白熱し過ぎる場面も多々ありましたが、そこは洒落や冗談、ユーモアにより緊張感を緩めながら、プロセスをも楽しむという大阪の文化と笑いのエッセンスを、実際に体感しながら何とかまとめることができました。

3日間にわたる一連の企画が終了し、これからのまちづくりの可能性が見出せたと感じています。それは、大阪の場所性と建築家の職能というポジティブな2つの要素を活かすことで可能性が開けるかも知れない、ということです。大阪はエネルギーに溢れており、同時に古いものと新しいものが混在する街、建築家は柔軟な発想からアイデアを提供し、日々の仕事の積み重ねの中で、少しずつではありますが社会を変えて来ているのです。それらをより活性化するには、行政と連携し、教育機関と協働し、市民と共に汗をかき、さらに一人一人の建築家が意識を持って社会に発信していくことが必要なのです。

この大会で得た成果は今後提言書としてまとめ、行政並びに市民の皆さんに配布する予定です。一過性の大会として終わるのではなく、今後の支部の活動において、このテーマに則って実践していく次第です。

そして、毎年行われるこのJIA全国大会が意義あるものとして全会員が認識し、今後の大会に連綿と繋げていくことで、建築家の存在や役割を社会に発信できるものと信じております。

大会式典

大阪市中央公会堂 10月28日(金) 14:00~15:15

上手と下手に「杉と檜」の樹木を据えた室礼は、格式が高く重厚な舞台の乾いた空気を穏やかに湿らせてくれる舞台演出となりました。司会者には関西を拠点にTVなどの司会で活躍されている福村多美子さんを起用。

14:00、フェッセルン・アンサンブルの演奏は、エルガー「愛のあいさつ」とプーランク「城への招待」で幕を開けました。実は、舞台中央のクラリネット演奏者は近畿支部の会員、そして、この大会では財務委員長。式典は、前近畿支部長であり大会実行委員長の松本敏夫氏の「ようこそ、おいでやす 大阪へ」でスタート。大阪は初めての全国大会であることや、大会テーマである「笑都物語」についての説明。「笑は、緊張や対立を緩め、その場を和まし、距離感の近さを保ちつつ、交渉を円滑にしていくという生活の知恵でもあります。また、心を癒す薬でもあると思います。これが笑都大阪の今まで生きてきた由縁であります」と挨拶。

続いて今年第12代会長になられた六鹿正治氏の挨拶。ご自身が近畿出身であることから始まり、私が印象に残ったことをかい摘みますと「国の文化のレベルは首都以外に、どれだけ文化的な都市が存在するかで測れる、という方がいます」と紹介され「大阪とその他の都市の個性の連携が地域全体を盛り上げる」、その上で「JIA建築家の役割は、地域の歴史・文化を尊重しながら、社会資産としてのまち並み、あるいは建築を大切に引継いでゆく、そしてその中で地域に密着しながら次の世代の社会的イノベーションに繋がるような活動を心がけていく」と語られました。

来賓の皆様からは、国土交通省大臣官房審議官の伊藤明子様、大阪府住宅まちづくり部長の堤勇二様、大阪市長の吉村洋文様、ASAタイ王立建築家協会副会長タナ・チラピワット様より会長アチャボン・ドウシットナノン様のご祝辞をいただきました。祝辞では、熊本地震において、応急危険度判定の協力などのお礼。グランドデザイン大阪まちづくりプロジェクトは、新大阪から阿倍野までの11kmを緑化する緑の背骨の実現。大阪市新美術館公募型設計競技が5案に絞られたことなどのお話を聞

くことができました。

また、大阪市長から「建築家と設計士の違いはなんだろう」答えを端的に要約すると「思想を表現するのが建築家ではないか」(ちょっと要約しすぎかも)と話されたことは印象的。

名誉会員証授与式、フェロー会員証授与式を行い、最後に井上久実近畿支部長から閉会の挨拶。途中に2人の近畿副支部長が亡くなられたことに触れられましたが、私の前任者です。そして「一過性の大会で終わるのではなく、この大会で得たことを社会に発信し、近畿支部はこれからも邁進していく次第です」と活力溢れた頼もしい締め括りでした。

私の知る限り、ウェルカムパーティーの担当とは「宴会の幹事のようなもの」と考えていました。ところが、この会場を決めた前任者の意思を察すると「大阪ミナミのパーティーをしっかりとデザインすること」と言っているのではないかと思いはじめました。このウェルカムパーティーの総括担当者は、フィンガーフードを展開する新谷岳大シェフを起用。未来都市をイメージさせるフィンガーフードのディスプレイを展開。また、来年の全国大会開催地の四国支部がPR活動の一環で生演奏を披露。味園ユニバースにぴったりのステージは会場をダンスパーティー場と化して盛り上がりました。さらに近畿の各地域会から持ち寄った銘酒と名水は人気コーナーとなりました。

レセプションパーティーは、鏡開きと檜の香る升酒で乾杯。大阪屋台には行列ができ、梅花女子大学のチアリーディング・レイダースによる東洋一の演技は、元気、勇気、笑顔、がテーマで、練習を重ねたアスリートに皆様も感動されたでしょう。

2つのパーティーについて、大会初日の会場の綿業会館は商人のまち船場の一角に位置する本町で、大阪のビジネスの中心です。2日目の会場の大阪市中央公会堂は、日本銀行、大阪市役所、中央公会堂をはじめ行政の関係機関のオフィスが並ぶ中心です。これら2つの会場付近一帯は大阪の生産ビジネス街で、その北と南の両端に巨大な消費の胃袋があります。この2つの相関関係をいかにデザインするかが我々の腕の見せどころでした。「1つは、ウェルカムパーティーの位置付けを根本から見直し、レセプションパーティーと同等のレベルで展開すること。1つは、それぞれの地域性を特化させ、2つのパーティーの対局を鮮明に表現すること」でした。

最後に、式典委員長の石井良平さん。ウェルカムパーティー総括担当の角直弘さん。レセプションパーティー総括担当の中島謙一郎さん。式典オープニング演奏の橋本頼幸さん。近畿支部協力会員委員会の皆様と委員長の本多雅親さん。この大会に関わっていただいた全ての皆様に感謝いたします。



フェッセルン・アンサンブルの演奏



松本敏夫大会実行委員長



六鹿正治JIA会長



伊藤明子国土交通省大臣官房審議官



井上久実近畿支部長



萬野光雄(萬野光雄建築設計事務所)

メインプログラム

プロローグ01 「船場」に生きる近代建築～山形政昭氏のお話と綿業会館見学会

10月27日 13:00～15:00 会場：綿業会館本館7階大会場 講師：山形政昭（建築史家・大阪芸術大学教授）

講演は今大会のプロローグとして大阪の建築、大阪のもっている建築の多様さという厚みについてのお話から、中之島ほど、景観という基軸、風景をもった街はないと思うとされた。

大阪市中央公会堂、西側の図書館を含めて重要文化財の建物が4棟あり、淀屋橋、大江橋の橋梁も重要文化財であることの紹介。さらに大同生命のビルがあり、適塾という江戸時代からの大阪のコアになっている歴史的建築物の紹介で、大阪の建築の蓄積の多さというものが理解できると語り、「船場に生きる近代建築」というテーマから、船場の構造そしてこの綿業会館につながっていくような話があった。

船場をつくっていく近代建築というものに焦点を当て、明治初期から近代にかけて大阪でどういった力が働いて都市が成熟してき



たことや、商都として大阪城の城下町として町人街として成立したことなど、お話はとめどなく続いた。

講演の後、見学者が3班に分かれ、綿業会館の職員3名の方にそれぞれ説明をしていただいて館内の見学が行われた。近畿支部が綿業会館内に事務局を設けており、会議などよく出入りしているが、日頃見学できない、談話室や貴賓室を見学できたことは貴重な体験であったと思う。綿業会館職員の方からの説明もさることながら、貴賓室での山形先生の説明にも熱が入り、予定の時間をオーバーする見学会であった。

一般の見学者や、他支部の会員の関心の高さを確認できたプロローグと言えよう！

青砥聖逸（あおとしょういつ／青砥建築設計事務所）



プロローグ02 JIA市民大学講座 2016 まちづくりセミナー 「笑われる街が生まれるまで」

10月27日 13:30～15:30 会場：綿業会館新館2階会議室 講師：井上章一（国際日本文化研究センター教授）

関西国際空港が、外国での呼び名は「OSAKA」である理由が、世界的デザイナー山本寛斎事務所からクレームがついたエピソードから始まり、英語で変態の意味「kinky」になってしまう「キンキ」では世界中から笑われてしまうなど、そんな悲哀を背負った関西で使われる言葉が、いつのまにか笑いの言葉となっていく様子を、風俗史家らしくわかりやすく解説していただいた。そもそもキンキの畿は都を意味し、畿内は都の内側という意味であり、我こそが都の内側と思う側から関西の東の外を関東と呼んだわけである。また、川の上流を意味する言葉である上方は、笑いの芸能に使い方が限られていることは、笑いについてのみ大阪が中心である象徴である。

経済的に躍進した上海では上海語は略絶滅したのに対し、関西



で関西弁がまだいけるのは経済発展が低迷しているおかげとする。が、それでいいではないかというのが井上教授のスタンスであった。世の中には東京を中心に据える屈曲した話が山ほどあるが、いずれは東京も廃れていく。大阪のように低迷する状況を東京は体現することになるのだから、先輩としてその道筋を

照らしてあげればいいと歴史家としてのアドバイスであった。日本の将来を見据えると拡大発展ばかりを追うだけでなく、縮退していく都市のごとくどう落とし前をつけるのかを考えるべき時期にさしかかっているということが、このまちづくりセミナーで示唆された知恵ではないだろうか。

八木康行（やぎ やすゆき／ステュディオエイトアーキテクト）



シンポジウム01 「文化都市の復権～大阪から全国へ」

10月27日 16:00～18:00 会場：綿業会館本館7階大会場
木津川計（上方芸能評論家）、香山壽夫（建築家・東京大学名誉教授）
ファシリテーター：倉方俊輔（建築史家・大阪市立大学准教授）

このシンポジウムは、低下している大阪の力を文化の力で復活を図り、建築家はそれによってどのように関わられるのかを考えることを目的として行われた。

上方芸能評論家木津川計氏は、都市には人格のように都市格があり文化のストック、景観の文化性、発信する情報がこれを決めるが大阪はこれらが低下していると指摘された。

建築家香山壽夫氏は、大阪に限らず特徴を失い均質化している地方都市において、建築は革命のように社会を変えることができなくとも人や時をつなぐことで小さくとも都市や街を変えられることを事例とともにお話いただいた。建築史家倉方俊輔氏は、木津川氏の著作を引用し文化を引っ張る一輪文化と市民が文化を楽しむ草の根文化の両輪の大切さを指摘され、草の根建築体験イ



ベント“イケフェス大阪”を御紹介された。

討論では、会場の綿業会館の建築を使いながら残してきたことの価値を確認し、建築家はつくるだけでなく文化性のある建物を守ること大切であることで一致した。

最後に、大阪には多様な人々を受け入れてきた土壌があり、高いコミュニケーション能力を活かし多様な文化を包括的に引きよせ発信していくことが次代への道であると締めくくられた。“笑い”を大きな意味で“良好なコミュニケーション” という意味で捉えていた大会のテーマが御三方の討論の中でうまく回収され、朗らかで楽しい会となった。

岩田 恵（いわた けい／ディーディーティー）



シンポジウム02 社会の改革～ソーシャルイノベーターとしての建築家

10月28日 15:30～18:00 会場：大阪市中央公会堂大集会室

第1部：吉村洋文(大阪市長)、河内崇典(み・らいず)、川口加奈(Homedoor)

第2部：伊東豊雄(伊東豊雄建築設計事務所)、工藤和美(シーラカンズK&H)、竹原義二(無有建築工房)

ファシリテーター：兼松佳宏(greenz.jp元編集長)

日本が抱える諸問題をいかに解決し、明るく未来を構築することができるのか。そして、我々建築家はどのようにして社会に関わり、新たな価値の創造者になり得るのか。ソーシャルデザインをキーワードに社会問題・行政について考え建築家の役割について議論しました。

第1部では、ソーシャルデザインの先駆け、greenz.jpの元編集長兼松佳宏氏をファシリテーターとしてお迎えし、大阪でソーシャルイノベーターとして活躍中の、み・らいずの河内崇典氏、Homedoorの川口加奈氏にプレゼンテーションをしていただきました。また、大阪市長吉村洋文氏に登壇いただき



大阪の抱える問題やこれからの大阪に関するお話を聞くことができました。

第2部では、建築家の伊東豊雄氏、工藤和美氏、竹原義二氏に登壇いただき兼松氏の司会で建築家がどのようにして社会に関わり、また建築家の職能にまで突っ込んだ話を聞くことができました。

明るい未来を目指して頑張っている若者たちの存在に気づき、我々建築家もそれを支える役割を担うことができればと思います。

栄 隆志(さかえ たかし/アバクス・アーキテツ)



シンポジウム03 生きる街～市民が担うまちづくり

10月29日 10:00～12:15 会場：大阪市中央公会堂大集会室

青木豊彦(東大阪モノづくり親善大使)、倉田哲郎(大阪府箕面市長)、

関 純子(関西テレビアナウンサー)、古谷誠章(建築家・早稲田大学教授)

モデレーター：桂歌之助(落語家)

「市民が担うまちづくり」をテーマに、最終日のメインとして大会テーマへの帰結を目標に据え、建築学科出身の落語家・桂歌之助さんを軸に、第一部では上方古典落語の味わい深い世界観を紐解きつつ話題提供する笑談(=落語の解体)、第二部でそれらの一つのショート(笑都)・ストーリー(物語)として新たな形に組み立てる三題噺(=落語の再構築)という二部構成とした。

落語の生き活きとした暮らしの豊かさを現在と対比させながら、多彩なキャリアで魅力あふれるパネリストから考えを引出しつつ、豊かさに対する価値観の再考や新たな示唆の発掘に迫るというもので、パネリストの個性をうまく引出す桂歌之助さんの卓越したMC力によりパネリストから繰り広げられる筋書きのない笑談は、

一種のエンターテインメントでもあり、目の前で繰り広げられている状況そのものがまさにテーマ「笑都物語」を体現しているかのように思え、即興の三題噺も素晴らしく鮮やかなオチへと結ばれ、終始笑いの絶えないものとなった。

「物の価値とは何か?」、長所・短所は裏表の関係にあり、観点を変えたとまた違った価値が見えてくる。「市民が担うまちづくり」とは、そうした多様な観点からの価値観をあぶり出し、共有するところから始まるのではないかと改めて感じさせられた。

木村貞基(きむら さだき/アルファ建築設計事務所)



エピローグ これからの街

10月29日 12:45～14:15 会場：大阪美術倶楽部(旧鴻池家本宅跡)

竹原義二(摂南大学教授・無有建築工房)、木村博昭(京都工芸繊維大学大学院教授・木村博昭+

Ks Architects)、古谷誠章(早稲田大学教授・スタジオナスカ)

3日間の大会を通じ、最後に大阪の街に対する意見をまとめるという趣旨で、関西から木村博昭氏と竹原義二氏、関東より古谷誠章氏が登壇したが、三方とも他のシンポジウムをじっくり聞くことが困難であったため、プログラムを変更し、登壇者の私見で、これから大阪の街をどのようにすべきか、という議論がなされた。

テーマは大きく5つに分かれ、1つ目は、大阪は、人間味のある親しみやすい生活を送ってきたおかげで市民が一体化しており、何かを生み出す力がある。また適度に良い建物が残っており、その歴史を感じることができるといった、大阪の魅力について。2つ目は、長屋の文化、中之島や舟場など、残すべき大阪の文化は数多く存在する。その近代的な資産をどのように残していくかが、街の魅力を維持する鍵になるとした、文化の歴史的価値について。3つ目は、北ヤードにステーションシティができると年間1億2千万人も人が集まるようになったが、世界中にあるものばかりが集まっている。古いものを活かしながら、経済的な価値となるように考えなければならないといった、再開発の手法について。4つ目は、かつて吉野の杉を切り、堺で桶にし、灘や伏見

で酒にしてから、京都や大阪を中心に消費するといった地域圏の商人文化があった。大阪は、経済の中心になるわけで、極端に言えば関西圏の企業しか入れないとか、経済のネットワークをもう一度作りなおさなければならない。といった経済の再構築について。5つ目は、多世代の混住。防災対策や安全性、コミュニティの健全性が大切であり、互いに助けあうことが生きる街として大事。また、世代を越えて何かやっているってことはとても重要だという街のあり方について。

これら5つのテーマの全てに、やはり大阪のアイデンティティが必要であり、連続して街づくりを進めなければならないと意見がまとまった。このシンポジウムもまた、10年後に同じことを話していることのないように、引き続き皆様の意見をいただけるような場所作りをしたいと思う。

橋口新一郎(はしぐち しんいちろう/橋口建築研究所)



フォーラム

建築家のあかりコンペ2016
公開2次審査会・表彰式・
ミニパーティー



10月26日(水) 17:30~20:30
大光電機ショールーム

落語家と行く
なにわ探検クルーズ



10月27日(木) 14:00~15:30
大阪水上バス淀屋橋港

JIA 青年会議 2016



10月27日(木) 21:00~23:00
味園ユニバース

第2回全国建築と子供たち
ネットワーク
【建築×子供】フォーラム



10月28日(金) 9:30~11:15
大阪市中央公会堂 大会議室

フォーラム

ストック活用を
環境・保存・災害・
まちづくりの視点で考える



10月28日(金) 9:30~11:30
大阪市中央公会堂 小集会室

NPO 建築文化継承機構
フォーラム



10月28日(金) 9:30~11:15
大阪市中央公会堂 第6・7・8会議室

職能・資格制度委員会＋
建築家資格制度実務委員会
共催フォーラム



10月28日(金) 9:45~11:30
大阪市中央公会堂 中集会室

大阪市中央公会堂建物
見学ツアー



10月28日(金) 11:45~13:15
大阪市中央公会堂 中集会室

フォーラム

フォーラム JIA ×
環境エネルギー性能+α



10月28日(金) 11:45~13:30
大阪市中央公会堂 小集会室

近現代建築再生の課題



10月28日(金) 11:45~13:30
大阪市中央公会堂 大会議室

災害対策全国会議
＋
フォーラム



10月28日(金) 11:45~13:30
大阪市中央公会堂 第6・7・8会議室

空き家空き地問題
ミニフォーラム



10月28日(金) 12:15~13:45
大阪市中央公会堂 中集会室

フォーラム

「生きた建築」って何？？
「イケフェス大阪2016」
に向けて



10月29日(土) 14:30~16:00
大阪美術倶楽部

出江寛×渡辺豊和 座談会



10月29日(土) 14:30~16:30
綿業会館 本館7階大会場

会議

全国まちづくり会議



10月27日(木) 11:00~13:00
綿業会館 本館3階小会場

ランチミーティング
＋
フェロー会員と語る会



10月27日(木) 12:20~15:30
綿業会館
1階会員食堂・新館2階中会場

会議

JIA 保存再生会議フォーラム
2016



10月27日(木) 13:00~15:00
綿業会館 本館3階中会場

2016年 JIA 環境会議



10月27日(木) 13:00~15:30
綿業会館 新館2階小会場

全国地域会長会議



10月27日(木) 13:00~15:00
大光電機ショールーム

日本建築家協会支部長OB会



10月27日(木) 16:00~18:00
綿業会館 本館3階中会場

会議

リフレッシュセミナー
REUNION



10月27日(木) 17:30~19:00
GARAGE39 (三休橋筋内のカフェ)

JIA-ASA 国際会議



10月28日(金) 9:30~10:30
大阪市中央公会堂 特別室

全国住宅部会連絡会議



10月28日(金) 9:30~11:00
コホロエルマーズグリーンコーヒー
カウンター(三休橋筋内のカフェ)

JIA 建築相談全国会議



10月28日(金) 10:00~12:00
大阪市中央公会堂 第2会議室

会議

法人協力会員サミット



10月28日(金) 10:30~12:15
大光電機ショールーム

国際会議レジリエントな
都市・建築をめざして



10月28日(金) 10:30~12:30
大阪市中央公会堂 特別室

展示

近畿で活躍する建築家展



10月23日(日)~29日(土)
10:00~21:00
ファッションブルストリート
(ディアモール大阪内)

全国住宅模型展
+
近畿の建築系大学作品展



10月27日(木)~29日(土) 10:00~
21:00 ※29日は10:00~18:00
多目的空間ディアルーム
(ディアモール大阪内)

展示

第10回建築家のあかり
コンペ2016応募作品展示、
全国学生卒業設計コンクール
作品展示、JIA 関連賞展示



10月27日(木)~29日(土) 9:30~
18:00 ※27日は10:30~18:00
綿業会館 新館7階大会場

第32回 2016釜山国際建築大展受賞作品展示、
空き家空き地コンペ入選作品展示、メーカー展示(協力会員他)、
大阪の近代建築こどもたちスケッチ大会



10月28日(金) 9:30~17:00
大阪市中央公会堂 3階中集會室



建築と子どもたち
ワークショップの展開
(キットの展示)



10月28日(金) 9:30~17:00
大阪市中央公会堂
エントランスコート

ウェルカムパーティー



10月27日(木) 19:00～20:30 味園ユニバース

会長レセプション



10月28日(金) 18:30～19:00 ザ・リッツ・カールトン大阪

レセプションパーティー



10月28日(金) 19:00～21:00 ザ・リッツ・カールトン大阪

見学会

野村勤治の
案内する
京都庭園巡り



10月29日(土) 13:00～17:00 東福寺、曼殊院



次年度の建築家大会は、徳島で開催する予定です。
多くの皆様のご参加をお待ちしています。

公益社団法人 日本建築家協会 (JIA)